



写真：粘液を出すモウセンゴケの葉(撮影：令和2年7月13日)

「モウセンゴケ」

モウセンゴケ *Drosera rotundifolia* モウセンゴケ科モウセンゴケ属

食虫植物

梅 雨の雨は霧島山に豊富な水を与えてくれます。草木の葉は日の光を浴びて瑞々しく輝き、沢のせせらぎは野鳥のさえずりと美しい旋律を奏でます。

ミヤマキリシマの花が散り、静かになったつつじヶ丘。散策路で足元をよく見てみると、変わった形をした植物があります。葉に赤い突起が密生している「モウセンゴケ」です。赤い部分には水滴があり、触ってみると若干ネバネバします。じつはこの粘液で昆虫を捕らえ、溶かして養分を得る「食虫植物」の仲間です。陽当たりの良い湿った環境を好み、梅雨明け以降、最も生き活きと昆虫を捕獲する葉を伸ばす様子が見られ、8月には小さな可憐な白い花を咲かせます。栄養の少ない土壌で生き残る術として昆虫を捕らえる葉を形成したようですが、その生存戦略には驚かされます。他にも甕岳火口内や高千穂峰東側で見ることが出来ます。生物が生き残るための様々な工夫をこの小さな植物から感じることが出来ます。

(文)えびのエコミュージアムセンター